

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-001958

(43)Date of publication of application : 07.01.1997

(51)Int.Cl. B42D 11/00  
G06F 19/00  
G07D 9/00  
G07D 9/00

(21)Application number : 07-150314

(71)Applicant : DAINIPPON PRINTING CO LTD

(22)Date of filing : 16.06.1995

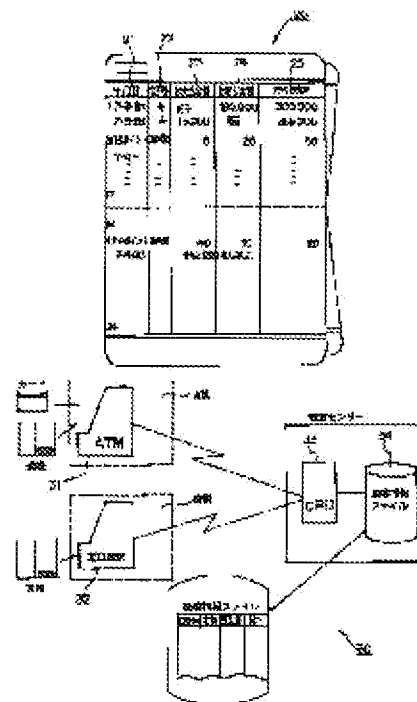
(72)Inventor : NAKAMURA SHINOBU

## (54) BANKBOOK DISPLAYING TRANSACTION FREQUENCY AND FINANCIAL TRANSACTION DEGREE PROCESSING SYSTEM

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To be able to enhance the value of a bankbook by drawing the bankbook personality and to urge the opportunity of utilizing the bankbook by displaying the transaction frequency responsive to the financial transaction degree of a customer on a display column of information regarding the financial transaction with the customer.

**CONSTITUTION:** A bankbook 20 for recording the paying-in and payment contents of a customer and a bank side has a transaction date display column 21, a symbol display column 22, a payment amount display column 23, a deposit amount display column 24, and a balance amount display column 25. When the customer conducts financial transaction at an ATM 31 by using the bankbook 20 or a cash card, or when the bankbook 20 is treated at the window terminal 32 of the bank, the magnetic information of the bankbook 20 or the card is transmitted to a CPU 33. The CPU 33 records the transaction content in a customer's information file 34, records the point responsive to the transaction degree, and displays the point on the bankbook 20 at a each preset period. The financial institution gives a service responsive to the number of the points such as the service of replacement with a premium to the customer.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-1958

(43) 公開日 平成9年(1997)1月7日

(51) Int. Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 4 2 D 11/00			B 4 2 D 11/00	S
G 0 6 F 19/00			G 0 7 D 9/00	4 3 1 Z
G 0 7 D 9/00	4 3 1			4 3 6 A
	4 3 6		G 0 6 F 15/30	K

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-150314

(22) 出願日 平成7年(1995)6月16日

(71) 出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72) 発明者 中村 忍布

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

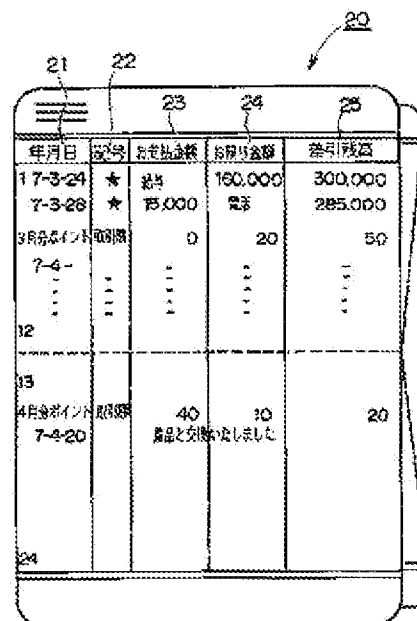
(74) 代理人 弁理士 藤田 久男

(54) 【発明の名称】 取引度数を表示した通帳、及び金融取引度数処理システム

(57) 【要約】

【目的】 通帳の個性を引き出し、通帳の価値を高め、通帳利用の機会を促す。

【構成】 顧客との金融取引に関する情報の表示欄21～25に、顧客の金融取引度に応じた取引度数を表示した。



The diagram shows a checkbook with a table on the inside cover. The table has five columns: 年月日 (Date), 記号 (Symbol), 金額 (Amount), 残高 (Balance), and 取引回数 (Transaction Count). The table is divided into two sections by a dashed line. The first section contains transactions from 1997-3-24 to 1997-4-1. The second section contains transactions from 1997-4-20 to 1997-4-24. The table is labeled with numbers 21, 22, 23, 24, and 25.

年月日	記号	金額	残高	取引回数
1997-3-24	★	25	160,000	300,000
7-3-28	★	15,000	25	285,000
3月金利引当	0	20	50	
7-4-1	...	...	...	...
...	...	...	...	...
12	...	...	...	...
13	...	...	...	...
4月金利引当	40	10	20	
7-4-20	商品と交換しました			
24	...	...	...	...

(2)

特開平9-1958

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 顧客との金融取引に関する情報の表示欄に、顧客の金融取引度に応じた取引度数を表示したことを特徴とする取引度数を表示した通帳。

【請求項2】 請求項1に記載の取引度数を表示した通帳において、

予め設定された期間ごとに、累計された取引度数を表示したことを特徴とする取引度数を表示した通帳。

【請求項3】 請求項1又は2に記載の取引度数を表示した通帳において、

前記取引度数の引き出し時の内容、その他の取引扱いに関する情報を表示したことを特徴とする取引度数を表示した通帳。

【請求項4】 請求項1～3に記載の取引度数を表示した通帳において、

前記金融取引に関する情報の表示欄は、支払い金額表示欄、預かり金額表示欄、及び残高表示欄を有しており、前記支払い金額表示欄、前記預かり金額表示欄、及び前記残高表示欄に、それぞれ、前記取引度数の引き出し度数、付与度数、及び累計度数を表示したことを特徴とする取引度数を表示した通帳。

【請求項5】 請求項1～4に記載の取引度数を表示した通帳において、

前記取引度数を、金融取引に関する情報とは異なる形態で表示したことを特徴とする取引度数を表示した通帳。

【請求項6】 請求項1～5に記載の取引度数を表示した通帳において

前記取引度数を表示した行と、金融取引に関する情報を表示した行との間に、余白行を設定し、又は識別ラインを表示したことを特徴とする取引度数を表示した通帳。

【請求項7】 顧客の金融取引度に応じた取引度数を通帳に登録するための金融取引度数処理システムであって、

通帳又はキャッシュカードに登録された顧客情報を読み取り、機械的に金融取引処理を行う取引処理装置と、前記取引処理装置と情報の授受可能に電気的に接続され、前記取引処理装置を制御する情報処理装置と、前記情報処理装置に電気的に接続され、前記取引処理装置により金融取引処理が行われたときに、その顧客の取引度に応じた取引度数が記録される顧客情報ファイルとを備え、前記取引処理装置は、金融取引毎又は予め設定された期間毎に、通帳の金融取引に関する情報の表示欄に、取引度数を印字することを特徴とする金融取引度数処理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、通帳に顧客の金融取引度に応じた取引度数を記録した、取引度数を表示した通帳、及びその通帳を処理するための金融取引度数処理

2

システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】図3は、従来の通帳の一例を示す図である。通帳10は、顧客と銀行側との入出金内容を記録するものである。図3に示すように、通帳10には、普通預金の明細を記録する頁11a、定期預金の明細を記録する頁11b、積立定期預金の明細を記録する頁11c等が設けられている。さらに、通帳10を機械処理して業務の効率化を図るために、各頁11を識別するための頁マーク12や、磁気テープ（図示せず）が設けられている。普通預金の明細を記録する頁11aには、取引日付表示欄、記号表示欄、支払金額表示欄、預かり金額表示欄、及び差引残高表示欄等が設けられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、前述の従来の通帳10では、以下の課題があった。第1に、通帳機械による処理等の都合上、ほとんどの金融機関の通帳10の形状が統一化されている。一方、金融の自由化が進む近年においては、各金融機関が通帳10の表紙に人気キャラクター等をデザインして、新規顧客の開拓を図ろうとする工夫がなされている。しかし、通帳10の表紙のデザインのみによれば、通帳10に個性を持たせ、他の金融機関のものとの差別化を図ることが困難であった。第2に、キャッシュカードを利用すれば、顧客本人の暗証や残高照合等を自動で行い、取引を極めて短時間に行うことができることから、キャッシュカードの利用が急速な進展を遂げている。かかる時勢の中では、顧客が通帳10に登録する回数が減少し、これに伴って金融機関が各顧客に対して未記帳明細を発送するというケースが増加している。

【0004】本発明は、上述のような課題を解消するためになされたものであって、通帳の個性を引き出すことにより、通帳の価値を高め、通帳利用の機会を促すことを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上述の目的を達成するために、請求項1の発明は、顧客との金融取引に関する情報の表示欄に、顧客の金融取引度に応じた取引度数を表示したことを特徴とする。請求項2の発明は、請求項1に記載の取引度数を表示した通帳において、予め設定された期間ごとに、累計された取引度数を表示したことを特徴とする。

【0006】請求項3の発明は、請求項1又は2に記載の取引度数を表示した通帳において、前記取引度数の引き出し時の内容、その他の取引扱いに関する情報を表示したことを特徴とする。請求項4の発明は、請求項1～3に記載の取引度数を表示した通帳において、前記金融取引に関する情報の表示欄は、支払い金額表示欄、預かり金額表示欄、及び残高表示欄を有しており、前記支払い金額表示欄、前記預かり金額表示欄、及び前記残高表

(3)

特開平9-1958

3

示欄に、それぞれ、前記取引度数の引き出し度数、付与度数、及び累計度数を表示したことを特徴とする。

【0007】請求項5の発明は、請求項1～4に記載の取引度数を表示した通帳において、前記取引度数を、金融取引に関する情報とは異なる形態で表示したことを特徴とする。請求項6の発明は、請求項1～5に記載の取引度数を表示した通帳において、前記取引度数を表示した行と、金融取引に関する情報を表示した行との間に、余白行を設定し、又は識別ラインを表示したことを特徴とする。

【0008】請求項7の発明は、顧客の金融取引度に応じた取引度数を通帳に記録するための金融取引度数処理システムであって、通帳又はキャッシュカードに記録された顧客情報を読み取り、機械的に金融取引処理を行う取引処理装置と、前記取引処理装置と情報の授受可能に電気的に接続され、前記取引処理装置を制御する情報処理装置と、前記情報処理装置に電気的に接続され、前記取引処理装置により金融取引処理が行われたときに、その顧客の取引度に応じた取引度数が記録される顧客情報ファイルとを備え、前記取引処理装置は、金融取引毎又は予め設定された期間毎に、通帳の金融取引に関する情報の表示欄に、取引度数を印字することを特徴とする。

【0009】

【作用】請求項1の発明においては、通帳には、顧客と金融機関との取引に応じた取引度数が表示される。従って、通帳の個性を引き出し、通帳に付加価値を与えることができる。請求項2の発明においては、通帳には、所定期間毎に累計された取引度数が表示される。従って、取引度数の累計が確認しやすくなる。

【0010】請求項3の発明においては、取引度数を引き出した場合等には、通帳にその旨の内容が表示される。従って、取引度数の積算内容等が確認しやすくなる。請求項4の発明においては、通帳の支払い金額表示欄、預かり金額表示欄、残高表示欄にそれぞれ対応して、取引度数の引き出し度数、付与度数、累計度数が表示される。従って、通帳に特別の欄を設けなくても取引度数の増減等をわかりやすく表示することができる。

【0011】請求項5の発明においては、取引度数は、金融取引に関する他の情報と異なる形態で表示される。請求項6の発明においては、取引度数を表示した行と、金融取引に関する情報を表示した行とが区別して表示される。従って、取引度数を表示した行を、他の行と判別しやすくなり表示することができる。

【0012】請求項7の発明においては、通帳が取引処理装置で処理されると、情報処理装置により、その顧客の取引度数が顧客情報ファイルから選択され、取引処理装置によりその取引度数が通帳に印字される。従って、顧客の取引度数を効率良く通帳に印字することができる。

【0013】

4

【実施例】以下、図面等を参照して、本発明の一実施例について説明する。図1は、本発明による取引度数を表示した通帳（以下、単に「通帳」という。）の一実施例の構成を示す図であり、頁を開いた状態を示している。通帳20には、従来のものと同様に、取引日付表示欄21、記号表示欄22、支払い金額表示欄23、預かり金額表示欄24、及び差引残高表示欄25等が設けられている。

【0014】図2は、本発明による通帳を処理するためのシステムの一実施例の構成を示す図である。このシステム30は、現金自動支払機又は現金自動預け払い機31（以下「ATM31」という。）と、窓口端末32と、CPU33と、顧客情報ファイル34とから構成されている。ATM31は、キャッシュコーナーに設置されたものであり、通帳又はキャッシュカードに設けられた磁気情報（顧客情報）を読み取り、機械的な金融取引処理を可能としたものである。窓口端末32は、銀行の窓口を設置され、通帳又はキャッシュカードに設けられた磁気情報を読み取り、通帳に取引情報を印字するものである。CPU33及び顧客情報ファイル34は、銀行の電算センターのホストコンピュータに設けられたものである。

【0015】CPU33は、上述のATM31及び窓口端末32と情報の授受が可能に接続されており、ATM31及び窓口端末32の動作を制御するものである。顧客情報ファイル34は、CPU33と電気的に接続され、CPU33からの指令に基づき、所定の情報が記録される部分である。顧客情報ファイル34には、顧客の口座No.、氏名、預金額の他、ポイント等が記録される。

【0016】顧客が通帳又はキャッシュカードを用いてATM31で金融取引を行ったとき、又は銀行の窓口端末32で通帳が処理されたときは、通帳又はキャッシュカードの磁気情報は、CPU33に伝送される。この情報により、CPU33は、いずれの顧客が金融取引を行ったかを識別する。そして、CPU33は、取引内容を、顧客情報ファイル34に記録する。さらに、その取引度に応じた金融取引度情報としてポイントを記録する。

【0017】金融機関は、取引内容に応じたポイントを予め設定しておく。ポイントの設定は、金融機関ごとに異なるが、例えば新規口座開設時には1ポイント、給与振り込みや年金受け取り口座指定では2ポイント、積立定期預金1回預け入れ2万円以上、期間3年以上で1回預け入れごとに1ポイント、ATM31の5回の利用で1ポイント、通帳繰り越し1回で1ポイント、公共料金振替1回で1ポイント、キャンペーン期間中はポイントが2倍、のように設定される。金融機関は、ポイント数に応じたサービス、例えば景品との交換、金利の優遇のようなサービスを顧客に与えるようにする。

(4)

特開平9-1958

5

6

【0018】ポイントは、予め設定された期間毎（実施例では1月毎）に、通帳20に表示される。すなわち、その月の最初に通帳20を用いてATM31で金融取引が行われた場合には、CPU33は、顧客情報ファイル34から、その顧客のその月の前の月のポイントを選定し、CPU33は、その情報をATM31によって通帳20に印字させる。

【0019】図1に示すように、ポイントが付与される取引に該当する場合には、その旨を示す記号が記号表示欄22に表示される。また、通帳20の取引日付表示欄21には、所定月のポイントの取引額である旨が表示され、支払金額表示欄23、預かり金額表示欄24、差引残高表示欄25には、それぞれポイントの引き出し度数、付与度数、及び累計度数が表示される。このような表示により、通帳20に特別な欄を設けなくても、ポイントの変動を容易に把握することができるようになる。また、その月にポイントの引き出しがあったときは、ポイントの表示と併せて、その旨が表示される。

【0020】以上、本発明の一実施例について説明したが、本発明は、上述した実施例に限定されることなく、均等の範囲内で種々の変形が可能である。例えば、ポイントの表示は、通常の取引金額等の表示と異なる形態（例えば、異なる色）で表示しても良い。あるいは、ポイントを表示した行と、通常の取引金額等を表示した行との間には、余白行を設定し、又は識別ラインを表示するようにしても良い。また、実施例では月毎にポイントの変動を表示するようにしたが、取引毎に表示するよう\*

\*にしても良い。

【0021】

【発明の効果】請求項1の発明によれば、通帳の簡便性を引き出し、通帳に付加価値を与えることができる。また、通帳記帳の機会を促し、未記帳明細の発生を少なくすることができる。請求項2の発明によれば、取引度数の累計の確認がしやすくなる。請求項3の発明によれば、取引度数の計算内容等が確認しやすくなる。請求項4の発明によれば、通帳に特別な欄を設けなくても取引度数の増減等をわかりやすく表示することができる。請求項5、6の発明によれば、取引度数を表示した行を、他の行と判別しやすく表示することができる。請求項7の発明によれば、顧客の取引度数を効率的に通帳に印字することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による取引度数を表示した通帳の一実施例の構成を示す図である。

【図2】本発明による通帳を処理するためのシステムの一実施例の構成を示す図である。

【図3】従来の通帳の一例を示す図である。

【符号の説明】

20 取引度数を表示した通帳

21 取引日付表示欄

22 記号表示欄

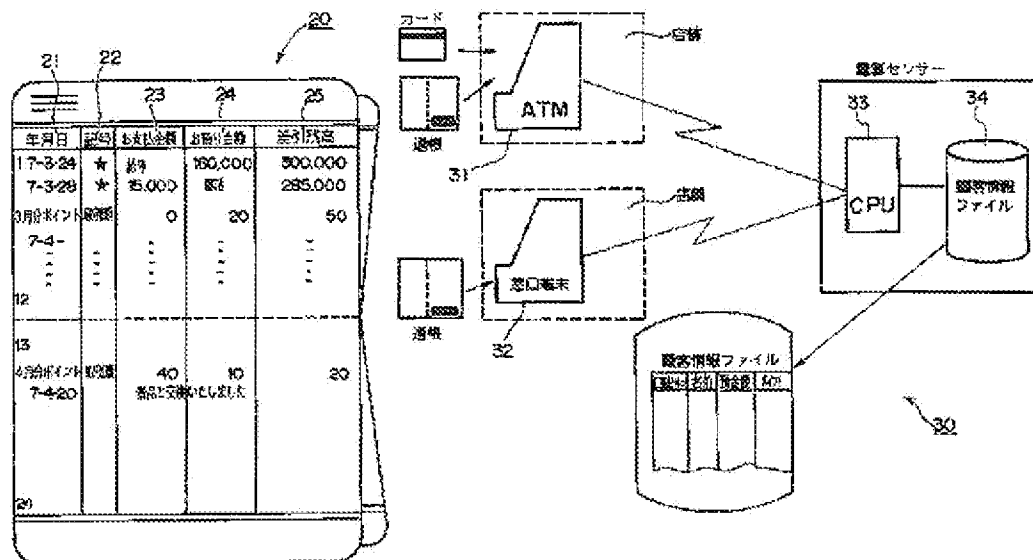
23 支払い金額表示欄

24 預かり金額表示欄

25 差引残高表示欄

【図1】

【図2】



(5)

特開平9-1958

【図3】

10

12

年月日	品名	お支払金額	お預り金額	差引残高
1				
12				
13				
24				

11a

11b

11c